

大田原中学校区小中一貫教育だより2020

発行：大田原中学校区学校運営協議会広報部 紫塚小学校 R3, 2, 24

中学校3年生、小学校6年生の卒業の日を間近に控え、令和2年度の教育活動もゴールが見えてきました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から制限されることが多い一年でありました。その中、本学区が進める小中一貫教育の総まとめとして、次の活動を行いました。

「大田原中学校区学力確認テスト分析会」の開催

2月18日（木）西原小学校、紫塚小学校、大田原中学校3校の教科担当教員が一堂に会し、1月に小学校3年生から6年生が実施した「学力確認テスト」結果の分析会を実施しました。分析会のねらいは、テストの結果を受け、進級までの期間、各学校でどのような学習が必要なのか、その具体策を検討することです。授業やテスト対策、家庭学習の課題の出し方などについて、国語科、社会科、算数科、理科、英語科の教科に分かれて話し合いを行いました。中学校教員からは、小中のつながりを考えた上での対策について意見伝達がありました。

教員間の相互理解を深め、9年間を見通した児童・生徒の学力向上について考える意義ある会となりました。



「大田原中学校区小中一貫運営委員会」の開催

19日（金）は、本学区運営委員会が開催されました。メンバーは、3校の校長、教頭、主幹教諭、教務主任です。会では、今年度の取組を振り返るとともに、来年度の本学区の学校研究課題（学校研究課題とは、教職員が、児童生徒の実態を把握し、よりよい成長を目指し研究すること）について話し合いました。来年度は、3校の学校研究課題を同ベクトルにして、学力向上そして英語教育の充実についてチームで研究し、本学区の児童生徒をよりよく育成していくこととなります。取組の様子については、この便りや各校のホームページなどでお伝えしていく予定です。



「大田原中学校区第4回学校運営協議会」の開催

2月24日（水）、大田原中学校に於いて「大田原中学校区学校運営協議会最終回」が、15名の委員、大田原市教育委員会浅羽一裕副主幹、大類指導主事の参加を得て開催されました。

会では、主に令和3年度の運営について協議しました。三校の校長からの令和3年度の学校運営方針の伝達があり、学校運営協議会自体の評価、運営協議会役員と日程、教職員の任用について協議しました。

その他、委員の皆様から次のような質問や意見が出されました。

○コミュニティスクールとは、どのような特徴があるのか。

⇒市教委、浅羽副主幹より説明

○自己有用感とは、どのようなことなのか。

⇒大田原中学校佐野校長より説明

○感染症拡大防止のため、部活動が自粛された。運動で能力を発揮しようとしている生徒の心身の負担の心配はないのか。

⇒生徒の気持ちを下げないよう対応してきている。文化祭は音楽祭とした結果、どのクラスでも一生懸命に歌う姿が見られた。駅伝大会も中止となった、しかし、生徒は前向きである。やれることをできる限り行い、後輩に引き継ごうとしている。

○中高一貫教育中学校への進学について

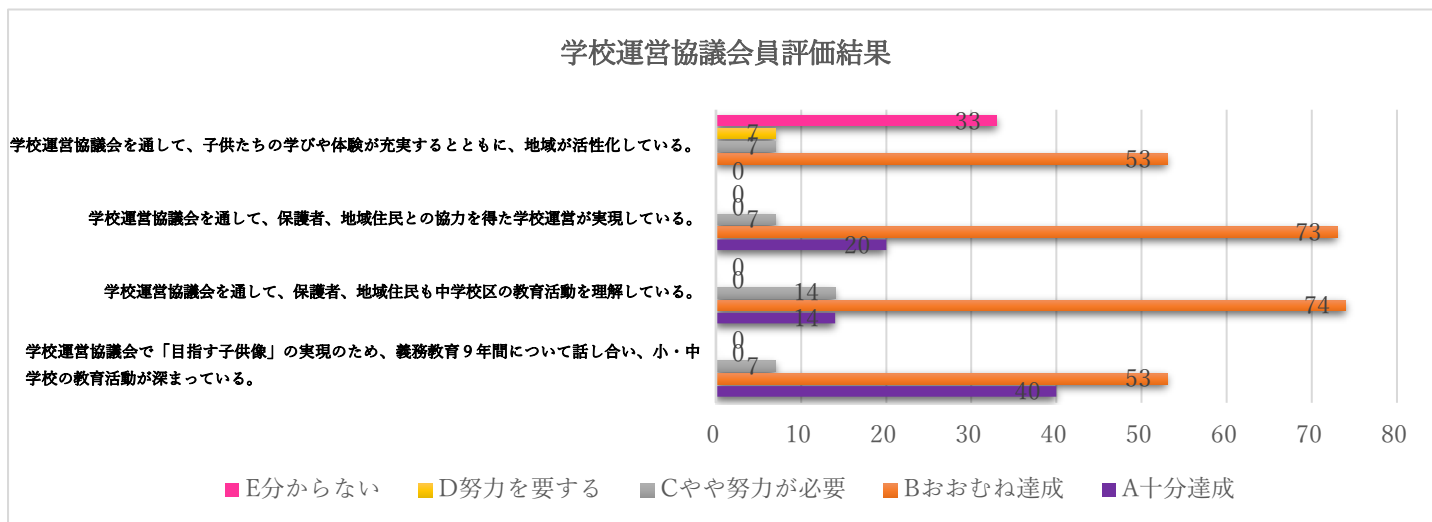
⇒5～6名の児童が、中高一貫教育中学校へ進学している。

○学校・地域・保護者の3本柱で協力する小学校のスポーツ教育について

小学校スポーツに外部指導者が必要不可欠である中、コロナ禍で外部指導者が一切関与できない状況。

その対応に対し、ぜひ外部指導者の意見に耳を傾けてほしいという意見。

委員が学校運営協議会を評価しました。評価の結果は次の通りです。



学校運営協議会は、小中一貫教育と一体化して推進しています。学校だけでなく、保護者の皆様、地域の皆様も学校運営に参画し、「地域とともにある学校づくり」を通して、市小中一貫教育の目標でもある子供たちの「人間性・学力・コミュニケーション力・社会的適応力」の育成と向上を図ることをねらいとしています。令和2年度は、コロナ禍の状況で、会の開催や活動が制限されました。一日も早く感染症が収束し、日常が戻ることを願うばかりです。次年度も学校運営協議会は、これからの時代を生きる大田原中学校区の子供たちのために、連携・協働体制を構築し活動していきます。次年度の第1回学校運営協議会は、5月11日（火）大田原中学校で開催する予定です。